

「サウロの目からうろこのようなものが落ちる」 2016年04月27日

使徒言行録9章10節～19節a。ところで、ダマスコにアナニアという弟子がいた。幻の中で主が、「アナニア」と呼びかけると、アナニアは、「主よ、ここにおります」と言った。すると、主は言われた。「立って、『直線通り』と呼ばれる通りへ行き、ユダの家にいるサウロという名の、タルソス出身の者を訪ねよ。今、彼は祈っている。アナニアという人が入って来て自分の上に手を置き、元どおり目が見えるようにしてくれるのを、幻で見たのだ。」しかし、アナニアは答えた。「主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。」すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう。」そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。

サウロはイエスをキリストと信じるエルサレム教会の信徒たちを許せないと迫害を加えた。彼らを捕えるためダマスコに向かう途中、復活の主イエスに出会った。彼は目が見えず、食べることも飲むこともできなくなり、手を引かれてダマスコに入った。ダマスコにアナニアという弟子がいて、主は幻の中で彼に呼びかけた。「直線通り」という通りに行き、ユダの家にいるタルソス出身のサウロを訪ねよ。彼は祈っている。そして、あなたが来て、自分の上に手を置いて、元通り目が見えるようにしてくれるのを幻で見て待っている。アナニアは驚いて、サウロは信徒たちを捕えるために祭司長から権限を受け、ダマスコに来た者で、とても彼の所へなど行けませんと拒否した。アナニアが恐れるのは当然である。しかし、主は「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。わたしの名のためにどんなに苦しまなくてはならないかを、わたしは彼に示そう」と命じられた。アナニアは恐れを振り切って出かけ、ユダの家に入り、サウロに出会った。そして、彼の上に手を置いて「兄弟サウル」と呼びかけ、あなたが出会った復活の主イエスは、あなたが元通り目が見えるように、また、聖霊で満たされるようにと、私をお遣わしになったと言った。すると、たちまちサウロの目からうろこのようなものが落ち、元通り見えるようになった。そこで、アナニアはサウロに洗礼を授けた。サウロは食事をして元気を取り戻した。

アナニアとサウロの間にどのような会話があったのであろうか。アナニアは主イエスの十字架と復活を、殊に、復活した主イエスがサウロに現われたことは「赦し」であると語っただろう。そして、異邦人やイスラエルの民に福音を伝える器として選ばれ、主イエスのために苦難を負うことになると話した。「殺してはならない」という律法を無視して、狂気に走っていたサウロは赦しを知らされた。目からうろこのようなものが落ちた内実は主イエスの愛を全身で受け止めたということではないか。アナニアの勇氣あるサウロへの伝道は彼の回心だけでなく、キリスト教会にとって決定的な意味を持つものであった。